

平成30年度 病虫害防除技術情報 第7号

平成31年1月29日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴハダニ類の防除徹底について

今冬はハダニ類が増殖しやすい高温乾燥傾向の気候が続いており（図1）、病虫害対策チームが1月中旬に行った巡回調査では発生圃場率80.0%（平年：37.1%、前年：50.0%）、寄生株率18.0%（平年：8.8%、前年：20.8%）と平年に比べ高い状況でした（図2）。

気象庁の予報によれば、今後向こう1か月も平年より気温が高く、ハダニ類が多発しやすい状況が予想されます。また、多くの薬剤で感受性低下の傾向が認められています。気門封鎖剤や天敵を利用した防除を徹底してください。

1. 発生の状況

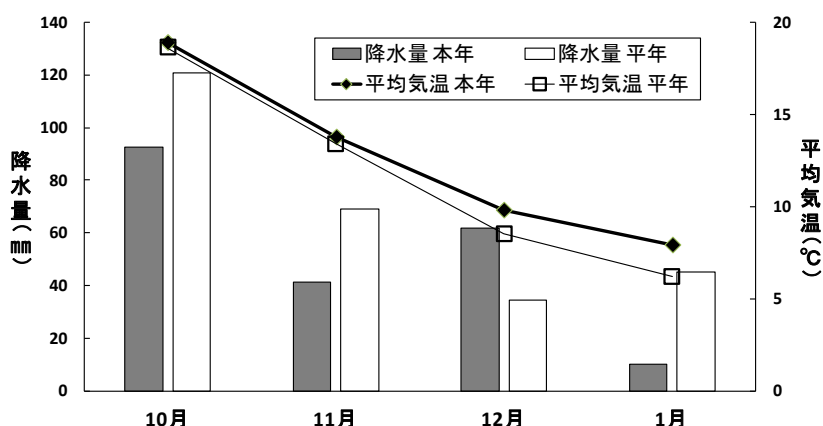


図1 気象状況（気象庁 大分市）※1月は1月23日までのデータ

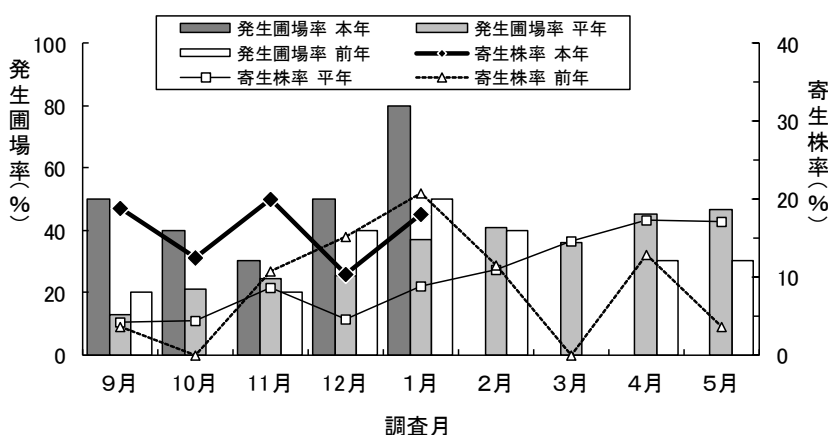


図2 病虫害発生予察巡回調査におけるハダニ類の発生推移

2. 防除対策

- (1) 薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されている。特にスターマイト、ダニサラバ、カネマイト、ダブルフェースは、雌成虫に対して感受性が顕著に低下している圃場が認められている。散布後に防除効果が認められない場合は使用を控える。防除には気門封鎖剤や天敵（カブリダニ類）が有効である。
- (2) すでに多発生が認められている圃場では、気門封鎖剤を中心に複数回防除を行ってハダニの密度を下げた後、天敵（カブリダニ類）を導入する。
- (3) 本虫は下葉の裏に多く生息する。気門封鎖剤は薬液が直接虫にかからないと効果が無いため、薬液が葉裏に十分にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。
- (4) 天敵（カブリダニ類）導入後は、効果を得やすい環境を整えるように努める。導入直後の摘葉は控えるとともに、乾燥には弱いため湿度の維持を心がける。
- (5) 天敵に長期間悪影響を及ぼす薬剤があるため、天敵の導入にあたっては薬剤の選定に十分注意する。
- (6) 天敵導入後ただちに薬剤散布を行うと、殺菌剤であっても天敵への悪影響が懸念されるため期間を空ける。
- (7) 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。
- (8) 使用薬剤は大分県農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)

